

虚子記念文学館投句特選句・令和八年四月

稲畑廣太郎 選

夜桜に息濡れて在り生者死者

岡山 石井宏幸

満開の花に重さのなかりけり

京都 山崎貴子

ものの芽や丈長く出で丸く出で

香川 藤田敦雄

藤棚や幹一本の晴れ舞台

兵庫 惠島祥一朗

庭の木の奏でる春の風の音

兵庫 辻田あづき

あだし野はかつて風葬竹の秋

大阪 米澤悦子

ゆふぐれやからからまはる風車

岐阜 丸山美樹

灰色のビル目覚めさせ蔦若葉

兵庫 山崎渺美

しやぼん玉風の行方をたづねけり

兵庫 武田奈々

ふらごこの錆びし鎖の高く鳴る

兵庫 藤丸慎士

(青少年)

(青少年)

入選句・令和八年四月

春の風邪好きな給食食べ損ね	埼玉	小田毬藻	花束と乗り合ふ電車春めける	兵庫	長安悦子
卒業にふさはしき貌さがしをり	大阪	押見げげげ	ふりかざす英語てふ武器落椿	兵庫	槌橋眞美
そろばんの試験を春の街角に	京都	夜寺耕太	飛ばし合ひ割り合ひをして石鹼玉	兵庫	小林昌子
街灯は未だ消えずに春の雨	千葉	志村 肇	雲一つ置き糸桜画布満たす	奈良	山口廣世
川沿ひの桜葉降る武家屋敷	三重	松村咲子	闘志ある如石鹼玉垣根越ゆ	奈良	堀田ますみ
春の海飽かず見る人漁る人	兵庫	前田容宏	落日の丘に孤高の花辛夷	奈良	堀田建夫
花榎櫓亡き師にまみゆごとく訪ふ	岡山	伴 明子	忌日来る虚子館の濃き紅椿	大阪	徳岡美祢子
朝まだき渡る大橋のどけしや	兵庫	森岡喜恵子	昭和の日庭も心も垣低く	大阪	若林友子
湧き出づるやう花人は世界より	大阪	山田佳音	天守より望む山河の風光る	大阪	立入宮子
暖かし居ねむりばかりして家居	石川	辰巳昌彦	花守は若き担ひ手吉野山	大阪	多田羅紀子
壺焼やスマホ片手に網見つむ	三重	吉川博子	麗らけし汀子師に会ふ投句室	兵庫	伊東伸子
花の彩一直線に芦屋川	兵庫	奥田好子	古きよりおちやめな遺産四月馬鹿	大阪	藤本公子
美しき赤の深さよ椿赤	大阪	谷本房子	蝶の昼三角ベースの佳境かな	兵庫	高野さち
過ぎゆきし刻春風の庭に佇つ	香川	三好ようこ	湧き水を使ふくらしや百千鳥	兵庫	川村ひろみ
ポスター張り替ふ駅長の桜時	大阪	奥野千草	ひそやかに命うなだれ花見母	兵庫	黒田千賀子
会へば皆花には触れず花をのみ	大阪	北上美佐子	微笑みも笑ひも爆笑もうらら	東京	荒川ともゑ
水の底光繕りたる糸柳	兵庫	足立朱麻	虚子館の連翹の黄の湿りけり	岡山	足立十古
強東風や頭上は青空メリケンパーク	兵庫	小川孝子	麗かや目覚めの窓に満つ光	大阪	杉山千恵子
ハート形の花屑散らす芦屋川	兵庫	細田清子	汀子忌を修し芦屋の春怒濤	兵庫	上岡あきら
銀輪のシャツ膨らます花菜風	茨城	杉山 満	茶摘終へ寛ぐ茶屋の抹茶ラテ	兵庫	宮本露子
春の雨ゆつくりゆつくり爪を切る	千葉	鹿野川小舟	歌ひ込むほどに若やぎ茶摘唄	兵庫	小柴智子
城山へ桜葉降る女坂	三重	前出美千子	旅立ち花日和なる日曜日	兵庫	深尾真理子
夕空を押し上ぐる香のミモザかな	三重	前出公子	春眠に置き忘れたる一句かな	兵庫	涌羅由美
菜種梅雨今朝小雨より始まらむ	三重	中島庸子	風光り戦ぐもの皆すきとほる	兵庫	中村恵美

今日眼科明日泌尿器科山笑ふ

三重

池本準一

席入りのただ一枝の紅椿	兵庫	二宮友美	あめふりに白亜の蛾の来てをりぬ	三重	水越晴子
陽炎を蹴散らしライダー駆る能登路	石川	白根寿子	日永しや權の飛沫のひびき合ふ	東京	清水あき
階の角を曲がれぬ石鹼玉	香川	葛原由起	鳩一羽うごけば他も春深し	兵庫	杉浦萌芽
二つ目の辻に俄に石鹼玉	京都	木村直子	船上の吾に激突す飛魚は	愛知	海神瑠珂
金縷梅のよじれ思春期めくよじれ	兵庫	藤丸千香子	つつじ咲く廣田神社のをみなたち	兵庫	福田光博
憧れの彼女とデート風光る	大阪	西尾浩子	初虹へつま先一つ高きかな	富山	三河三可
さりげなく鼻をくすぐる春の風	兵庫	河野ひろみ	花の雨汀子も在りし吉野かな	神奈川	平野孤舟
樟落葉しきつめられて雨あがり	兵庫	高杉靖子	顎紐を解きて遍路の影終ふ	大阪	棕本望生
噂好き占ひも好き春の昼	香川	三宅久美子	漱石の謡聞ゆる花の昼	兵庫	藤井啓子
山のなき南の島の春の風	徳島	多田まさ子	連獅子のいよよ毛振りや別れ霜	兵庫	風待ラテ
花曇天閣の眠さうな	兵庫	辻 桂湖	鬼棲みし山も辛夷の咲き誇る	兵庫	二瓶美奈子
雲のごと山桜また山桜	鳥取	棕 則子	珍しや芦屋川にも春の水	兵庫	田中節夫
春潮に叫び決着つけしこと	兵庫	玉手のり子	蔦若葉風を纏ひて生き生きと	兵庫	河合美恵子
浮雲の花の谷へと紛れ着く	兵庫	岸川佐江	休演の野外劇場百千鳥	兵庫	山口弘子
虚子館は同志の誇り花日和	大阪	林 曜子	百千鳥不協和音の少しづつ	兵庫	西尾とし子
咲けば散る花のさだめを知りつつも	鳥取	前田 千	てらてらと美しき輝き蔦若葉	兵庫	山岸正子
こちらから明かして安堵四月馬鹿	兵庫	永沢達明	除幕式人のささめく暮の春	大阪	富永武司
詩心をふところに抱き野に遊ぶ	鳥取	棕 誠一朗	前籠にはみ出す野菜春の風	兵庫	高市敦之
潮風になほ雪柳の白き風	石川	辰巳葉流	在さぬ庭実梅数多や汀子邸	兵庫	中村澄子
花雪洞ふと過りたる君の影	大阪	河辺さち子	瀬の音に咲き急ぎたる著莪豊	兵庫	高橋純子
桜鯛提げ尾道の新居訪ふ	大阪	須知香代子	育休を男もすなる昭和の日	兵庫	岩鼻絹子
み吉野の見ゆる限りの春惜む	京都	西村やすし	誌面にて好きな句見出す夏のカフェ	千葉	野末トヨ
横顔に揺らぐ夜の闇花篝	京都	前 悦子	山吹や私服姿の武将隊	三重	瀬川琴女
どの坂も満開なりし花の街	兵庫	池田文子	春の雲背中合はせの駅の椅子	埼玉	吉田春代
家族皆卒業祝ふ洋食屋	奈良	堀ノ内和夫	虎杖はこうして食ぶと里の人	兵庫	松本 敬

公園に老いてなほ咲く藤は白	兵庫	春の新々
告知から三年経ちて畑打つ	兵庫	天下明太郎
太平洋越えて今年も花木	兵庫	恵島京子
夜桜や夢は見果てぬ通り抜け	兵庫	伊集院秀樹
春惜しむ蕪村の影や金福寺	大阪	深森明鶴
微睡みは夢うつつなり亀ぞ鳴く	大阪	森重深鶴
満天星の花の零るる帰り道	滋賀	近江堇花
新しき法衣の袖に花の塵	大阪	深森佳鶴
六人の子らのカートに鯉のぼり	神奈川	斉藤苑子
徘徊ぢやなくて引鴨追うてをり	和歌山	中島紀生
踏切の標識の影陽炎へり	愛媛	星月彩也華
春宵や附祝言の靱猿	兵庫	太平楽太郎
昼焼肉今日は肉の日生ビール	奈良	豚々舎休庵
野遊やテディベアーを座らせて	兵庫	キートスばんじょうし
沈丁の香にふと止む舟漕ぐ手	東京	宮村土々
花は葉に師の言の葉はとこしへに	神奈川	進藤剛至